

# 令和2年度「民間試験を活用した英語4技能向上事業」

## 報告書 C高校

### 1 令和2年度入学生の指導に係る全体計画 Plan

技能	1年	2年	3年
Reading	<p>(指導計画) 教科書や問題集の英文をとおして、500語程度の英文を精読する。 5分間で150~200語程度の短めの英文を速読する。 単語テスト、暗唱例文テストを毎週実施する。 (力) 語彙力をつけて、重要な箇所に留意しながら、英文を読む力。</p>	<p>(指導計画) 教科書や問題集の英文をとおして、長めの英文の内容を把握する。 短時間で短めの英文を速読する。 単語テスト、暗唱例文テストを毎週実施する。 (力) 語彙力に加えて、文法・語法、構文を見極めながら英文の内容を正しく把握する力。</p>	<p>(指導計画) 教科書や速読・精読の問題集を利用して、難解な英文の内容や指示語の内容を理解する。 単語テスト、暗唱例文テストを毎週実施する。 (力) 高校内容の知識を活用して、難解な英文の内容を理解することができる力。 比較的短めの英文の概要を早く把握できる力。</p>
Listening	<p>(指導計画) 音声CDを活用して、様々な技法の音読に取り組む。 (授業ではオーバーラッピングやディクテーションを行う。) 週末課題を利用し、総合問題集のリスニング問題に取り組ませる。 (力) 英語の音声に親しみ、音のつながりや発音の強弱を聞き分ける力。 10分程度の短いリスニング問題に取り組むことができる。</p>	<p>(指導計画) リスニング教材を使用し、長めの音声の概要把握やディクテーション、内容理解問題に取り組む。 授業内で教科書の題材に関連した英語のニュースの視聴をする。 (力) 共通テストでの30分のリスニングに対応できる集中力、1度の音声で必要事項を聞き取る情報処理能力。 実際に活用されている英語に親しむ力。</p>	<p>(指導計画) 共通テスト対策問題、大学入試対策問題を用いてリスニング問題の演習を行う。  (力) 長めの英文を1度のリスニングで処理できる力。</p>
Speaking	<p>(指導計画) 授業の帯活動やALTとの授業を利用し、ペアで意見交換を行う。 与えられた題材について意見をまとめ、プレゼンテーションを行う。英検の二次試験面接練習を通じた課外の個別指導を行う。 (力) 理由や例示、接続詞を用いながら、英語で自分の意見を30秒~1分間続けることができる。</p>	<p>(指導計画) 授業の帯活動を利用し、ペアで意見交換を行う。また、相手の意見に対する質問をする。 グループで与えられた題材について意見をまとめ、プレゼンテーションを行う。 英検の二次試験面接練習を通じた課外の個別指導を行う。 (力) 序論・本論・結論を意識して自分の意見を述べることができる。 相手の意見について質問をする力。</p>	<p>(指導計画) 授業の帯活動を利用し、ペアで意見交換を行う。 英検の二次試験面接練習を通じた課外の個別指導を行う。  (力) 相手の意見の概要を聞き取り、質問や意見を述べる力。</p>
Writing	<p>(指導計画) 教科書の内容についての要約を行う。 序論・本論・結論を意識して教科書に関する自分の意見を書く。 (力) 序論・本論・結論を意識して自分の意見を述べることができる。</p>	<p>(指導計画) 授業や週末課題を通じて、長めの英文を書くことができる。 (力) 語彙、文法、構文に気を付けながら、正しい英文を意識して書く力。 指定された条件で英文を書く力。</p>	<p>(指導計画) 授業や課題を通じて、適切な例示を用いながら、長めの英文を書くことができる。 (力) 指定された条件で、語彙、文法、構文に気を付けながら、自分の意見を書く力。 自分の意見を伝える際に、主語に気を付けて英文を書くことができる。</p>

2 試験結果を踏まえた (1) 現状分析、(2) 重点課題、(3) 重点課題の克服に向けた実践 (指導と評価の工夫) **Do**

技能	(1) 現状分析	(2) 重点課題
	(3) ①実践 (指導の工夫)	(3) ②実践 (評価の工夫)
Reading	(1) 全国平均のスコア 152、評価 A2.1 を下回り、学年平均のスコアが 133.15 で A1.3 の評価となった。 語彙力の不足から英文理解に苦しんだ生徒や時間が足りなかった生徒がいた。	(2) 休校の影響や8月受検のため語彙力が絶対的に不足していることが一番の課題と考えられる。
	(3) ①入学後から語彙力の教科に特に力を入れて、毎授業の冒頭は帯活動として単語練習を行い、その単語テストを毎週実施し、考査では広い範囲で実施した。 民間試験後は上記に加え、模試の満点復習を継続して行き、堤先生の授業を参考に語彙推測力と速読力を付ける活動を行った。本文の自動化を図り、スキミングやシャドーイングに力を入れた。	(3) ②新出単語導入の際に成り立ちや反意語、同義語なども説明して単語を覚えやすくした。また、単語のハンドアウトに語源や英単語クイズなど、興味を引くような題材を載せ、生徒の単語への学習意欲を高めた。 民間試験後は教科書の自動化を図ったうえでのリテリングをパフォーマンステストとして行った。
Listening	(1) 全国平均のスコア 158 を大きく下回り、学年平均のスコアが 132.55 で A1.3 の評価を得た。 長い分量のリスニングや、音のつながりへの戸惑いにより次の問題も聞けない生徒も見られた。	(2) 日頃のリスニングの量が不足している。また、英語特有の音のつながりや、アメリカンイングリッシュ以外の発音への戸惑いが見られた。また、一度の戸惑いが次の問題まで影響した。
	(3) ①民間試験受検前は、教科書の CD と朝自習のリスニングのみであったが、民間試験後は週に1回帯活動として4技能を伸ばす教材を導入し、本文の聞き取りを各 part の活動に入れた。また、Youtube から教科書に関連する英語音声動画を活用したりするなどリスニングの機会を増やした。	(3) ②パフォーマンステスト時にペアの話す内容を評価させるなど、「聞く」ことに責任を持たせるようにした。また、意見を述べる際も前に出たプレゼンテーションとし、意見や表現を共有するなど工夫した。
Speaking	(1) 全国平均のスコア 203 を少し下回り、学年平均のスコア 199.8 で A2.1 の評価を得た。 受検当時は英語でペアワークをさせると一生懸命に伝えようとする生徒が多くいた。	(2) 単語説明の際に複文にならず、ジェスチャーと単語の羅列になっていた。
	(3) ①新出単語を 30 秒で英語で説明したり、教科書の内容について自分の意見を述べたりリテリングする活動を民間試験受検後も継続した。	(3) ②意見やリテリングのパフォーマンステストを行った。ペアが足りないところは教員がペアになったため、非常に緊張感のあるテストになった。
Writing	(1) 全国平均のスコア 197 を下回り、学年平均のスコアは 177.6 で A1.3 の評価を得た。 書く活動になると苦手意識があり、分からない単語を知っている単語で置き換えることができない生徒が多くいた。	(2) 語彙や文法が不正確な箇所が多く見受けられた。
	(3) ①民間試験前も教科書の英文に関して意見を述べたり、要約をしたりしてきたため、民間試験後も同様に頻繁に英文を書かせる機会を設けた。また、リテリングや意見のパフォーマンステストも行った。	(3) ②意見やリテリングは話した内容を時間を計って書き、評価するパフォーマンステストを行った。ループリックで毎回確認してその時の生徒がやりがいを有るように目標を決定した。 年に4回の考査と長期休業明けの学力テストを通じてライティング力を評価した。語彙や文法、語数、内容の観点から評価した。

### 3 実践の検証 **Check** 及び改善案 **Act**

技能	実践の検証	改善案
Reading	<p>①単語テストについては毎週行うことができた。帯活動での単語練習や単語説明には積極的に取り組む生徒がほとんどであった。</p> <p>模試の満点復習もほとんどの生徒が真面目に取り組む、基礎的な語彙だけでなく模試や入試に必要な語彙を意識することができた。また、語彙推測力を図る活動では、最初は1 part に10分をかけても終わらなかった生徒が5分程度で終了するようになった。速読力を付ける活動のスキミングでも同様に活動時間が短くなってきている。</p>	<p>①授業内だけではなく、家庭での継続的な学習にもつなげていくため、達成状況をチェックするシートを作成するなどしていきたい。また、復習も意識させ、習った単語を英文の流れの中で意味をつかみ、大まかな流れだけでなくしっかり内容を把握させることも並行して行いたい。</p>
	<p>①単語の成り立ち等を知ることが面白かった、というアンケート結果も得られたことから、興味関心を引くことができた。語彙を関連して覚える重要性を理解して学習に励んでいる。</p> <p>シャドーイングやスキミングの練習で教科書の自動化を図ったことで、教科書で使われている単語や表現を深く理解し、自分の知識とする重要性に気づいた。それはリテリングのパフォーマンステストで自分の言葉に言い換える難しさを実感したからであり、高次の段階に入ったことがうかがえる。また、進研模試1月では長文読解の全国平均点が長文読解1が9.0、長文読解2が5.4のところ本校では9.0と5.2となり、ほぼ全国平均と並ぶまでに向上した。これによりパフォーマンステストの有用性が実証されたと言える。</p>	<p>②スキミングの練習に時間がかかってしまうため、家での練習をどうさせるかの模索をしていきたい。これも達成状況を確認するハンドアウト等が必要であると考えられる。そのうえでフレーズリーディングにもっと活かしていけるよう指導を行っていきたい。</p>
Listening	<p>①ディクテーションはだいぶ慣れてはきたが、聞き取った音と知っている単語を結びつけることができなかつた。教科書の内容に沿った Youtube の動画は、全てを聞き取ることは出来なくても少しでも聞き取ろうと努力していた。また、聞き取れると嬉しい様子であったので、生徒の意欲向上につながっていると感じた。今後もうまく活用していきたい。</p>	<p>①次年度、校内に wifi が接続されるため、積極的に生徒のスマートフォンから youtube や英語ラジオ、アプリケーション等にアクセスさせて生の英語に触れさせる機会を増やしたい。</p> <p>リスニングの最初の指導でリエゾンについての指導を行っていなかったことが反省事項である。文法事項を活用して語を推測するなどの指導もしていきたい。</p>
	<p>②アンケート結果では、「意見を共有すること」が楽しい活動の上位に入った。パフォーマンステストやプレゼンテーション時に責任を持って聞くことで「聞く」ことで自分の知識が増えること、また聞き取れたら達成感があることを理解した結果であるとされる。今後も継続していきたい。</p> <p>また、進研模試1月ではリスニングの全国平均点が11.6のところ本校では11.7となり、全国平均をわずかが上回る結果となった。このことからパフォーマンステストの有用性が実証されたと言える。</p>	<p>②授業の導入時の意見の共有ももっと増やし、お互いの耳を鍛える活動を増やしていきたい。上記にも記したが、生の英語に多く触れる機会も設けていく。また、有志を集めて朝早くからリスニングを行う同好会を立ち上げるなど、少しずつ難易度の高いリスニングに挑戦する輪を広げていきたい。</p>
Speaking	<p>①上記でも述べた楽しい活動のアンケート結果では、「単語の説明」が1位、「意見を共有すること」も上位であった。授業の中で意見を話したり、リテリングをしたりと即興的、または考えて話をする活動を多く持ったが、生徒はどちらの活動も楽しんでたことがこのアンケート結果から伺える。</p>	<p>①ほとんどの生徒が間違いを恐れずに話をするが、エラーを恐れるために少し日本語を介在させる傾向にある生徒がいるため、間違ってもいいから伝えることが大切だということを徹底していきたい。また、長めの内容でもスクリプトなしで話ができるようにリテリングのパフォーマンステストを改良していきたい。</p>
	<p>②リテリングのパフォーマンステストでは、話した内容を書かせたため、多く話せること＝英文を書けること、という意識付けが行えたことが有意義であった。生徒同士の評価でも、同じ教科書の内容でも自分の内容として言い換えができていくか等の観点ができちんとできるようになった。</p>	<p>②生徒の中には知らない単語を辞書で引いてそのまま使ってしまう、ペアが理解できない状況がまだ見られるため、継続的に指導をしていく必要がある。加えてやはり語彙力を伸ばす指導も必要であるとする。今年度は主にペアを軸としたパフォーマンステストを行ったが、研修に積極的に参加したり、他校の取り組み状況から適切なパフォーマンステストの取り組み方について学び実践したい。</p>

Writing	<p>①「コミ英の授業で書く力が付いたと思うか」という生徒のアンケート結果では、「非常にそう思う」「そう思う」が68.3%となった。書く活動を多く行い、パフォーマンステストに結びつけた結果であると考ええる。</p> <p>また、10分間で100語以上を書く生徒が増え、中には200語以上を書く生徒も見られるようになった。継続して語彙数を増やしていきたい。</p>	<p>①生徒アンケートではリテリングは難しい、という意見も多かった。スピーキングでも述べたが、内容を分かりやすく伝えるためには、分からない単語を知っている単語で置き換える力が今後必要であると感じる。また、書くことが苦手な生徒もまだいるので、導入の意見など短い文章を書くことを重ねていき、長い文章につなげていくようにする。</p>
	<p>②序論・本論・結論を用いて意見を書くことを教えたので、生徒は意識して書くことができた。また、必ず論を支える理由を書くことを指導したため、単なる意見の羅列ではなく、論拠を示すことができてきている。パフォーマンステストでリテリングの練習を口頭で何度か行い、その内容を時間を計って書くことで、時間内に処理する力も少しずつ培われてきているように感じる。</p> <p>また、進研模試1月では表現力の全国平均点が7.2のところ本校では7.4となり、全国平均をわずかだが上回る結果となった。これによりパフォーマンステストの有用性が実証されたと言える。</p>	<p>②次年度以降も継続して書く機会を設けたり、様々な条件を与えて、条件に合うような英文を書く練習をするとともに、パフォーマンステストも継続していく。</p>